

(3) 保存管理計画

① 個別構成要素に係る保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

史跡埼玉古墳群の「恒久的な保存」や「安全で快適な歴史空間を創造する」ため、埼玉県では平成17年度に「史跡埼玉古墳群保存整備基本計画（基礎資料調査及び現状分析）」を刊行し、翌18年度には「史跡埼玉古墳群保存整備基本計画」を策定した。本計画では、「史跡埼玉古墳群の保存整備は、発掘調査成果の検証に基づいた整備とする」などの整備方針を設定し、19年度からはこの計画に基づき、奥の山古墳の発掘調査及び解説板設置などの情報施設の整備を行なっている。また、史跡指定範囲拡大や公有化促進などの準備を開始している。

各古墳の保存と整備方針は以下のとおりである。



丸墓山古墳

直径105mの日本最大の円墳である。整備では円墳の規模をわかりやすくするため、西側周堀を整備し、堀に沿って散策できるようにする。また、樹木を整理して周辺からの古墳の眺望景観を確保する。



稲荷山古墳

国宝の「金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）」が出土した全長120mの前方後円墳である。整備では、古墳範囲の復原を目指し、中堤や中堤造出し、周堀を整備する。また、中堤上を園路として活用し、墳丘へ昇降できるようにするほか、墳丘形態を損なわないように、礫礮や粘土礮を整備する。



瓦塚古墳

全長73mの前方後円墳で、堀が二重にめぐっている。整備では、移築民家等を移設して、中堤や周堀の一部を整備し、古墳の規模が理解できるようにする。また、中堤に形象埴輪列の復原を行う。



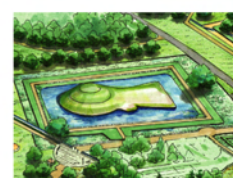
將軍山古墳

全長109mの前方後円墳で、墳丘や横穴石室が概に整備されている。今後の整備では、中堤や周堀の一部を復原整備し、中堤上を園路と活用するほか、前方部頂上にも昇降できる整備とする。



鉄砲山古墳

全長90mの前方後円墳である。整備では、古墳範囲の復原を目指し、墳丘の修景整備や中堤、周堀の復原整備を行う。中堤や周堀の整備は、既存の樹木等を生かしながら、中堤上を園路として活用する。



二子山古墳

全長138mを誇る武蔵国で最大の前方後円墳で、周堀や中堤、中堤造出しが整備されている。整備では、古墳範囲の復原を目指し、墳丘の修景整備や中堤、周堀の一部を復原整備する。また、周堀にあるハナシヨウブ等を生かすほか、中堤上の園路には柵等の安全対策を施す。



愛宕山古墳

全長53mの前方後円墳である。整備では樹木の残る墳丘を現況保存し、二重にめぐる周堀や中堤の復元整備を行う。また、中堤上を園路として活用する。



中の山古墳

全長79mの前方後円墳である。整備では古墳範囲の復原を目指し、中堤や周堀を整備する。墳丘は地域種の草地とし、中堤は園路として活用するほか、須恵質埴輪等を配置する。



奥の山古墳

全長70mの前方後円墳である。整備では古墳範囲の復原を目指し、墳丘の修景整備を行うほか、周堀は空堀に復原整備を行う。また、外側周堀の確認を行い、調査成果に応じた整備を検討する。



戸場口山古墳

一辺が40mの方墳である。整備は周堀を含めた範囲の復原を目指す。そのため、公有化や発掘調査が必要である。



浅間塚古墳

規模や形態は不明であるが、一連の調査から古墳であることが判明している。今後は発掘調査成果に応じた保存整備を検討する。



小円墳群

現在は、土盛りや円形のツツジ等で表現している。整備では、比較的規模の大きな円墳は墳丘や周堀を含めて立体的に整備し、その他は、ゆるやかな土盛りや周堀表示を行う。